

市民健康講座 レポート

市民健康講座「一から学ぶ放射能」 ～正しく知って正しく怖がる～ご報告

平成24年5月27日（日） 13時～15時半 山内地区センター共催

今、日本は漠然とした不安に覆われています。放射能に関する不確実で多様な情報に、信頼性を欠く政府発表が加わり、パニックに陥る子育て中の母親、家族バラバラになって海外にまで避難する人、国産食品を一切購入しない人、また更には偏見に苦しむ福島の人々、瓦礫処理の協力を拒む地方自治体等々、これらの混乱が今も続いています。このことはまた受け取り側の基礎知識不足も原因となっています。

こんな状況を少しでも整理していただくべく、当NPOの「市民健康講座」では、五月二十七日あざみ野地区センターに於いて、講師に東京工業大学名誉教授の 小川雅生さんをお迎えし、「一から学ぶ放射能」を開催いたしました。会場は180名の参加者で満杯となり、やはりこの問題への関心の高さがうかがえました。

講演では、まず放射性物質の種類や放射線の性質、単位、半減期、自然界にある放射線、医療での被曝等が解説された後、本題の人体への影響に移りました。放射能の一番の問題点はガンの発生です。これは細胞分裂の際に放射線が染色体を切断し、更にこれらの損傷を修復する機能を持つ染色体が同時に破壊された場合に、ガンになってしまう確率が高いことが、多数のスライドと共に説明されました。また年間被曝100ミリシーベルト以上ではガンの発生率が上がり、これ以下の低線量率だと他の発生因子からのガンとの区別が出来ず、その発生率は不明である旨の解説が行われました。どうやら100ミリシーベルトあたりに危険度の分岐点があるようです。

